

# 地理院地図（電子国土 Web）を利用した 各時代の海岸線推定と歴史を再検討 — 美濃国不破郷の歴史 —

関ヶ原町歴史民俗学習館  
サポーター『不破ふわ塾』  
代表 木村 寛之

## キーワード

地理院地図 情報の可視化 古環境（海岸線） 地理・歴史 教育

・『不破ふわ塾』は関ヶ原町歴史民俗学習館サポーター（ボランティア団体）として「要の地・不破」を中心に歴史イベント「If 武将たちの関ヶ原」の企画・運営を行っている。地形情報を中心に調査研究を行い、成果を可視化（地形・数値）技術を活用しイベント資料を作成している。

前回の作品は関ヶ原合戦にスポットを当てたが、今回は弥生期・古墳期・古代期の濃尾平野の古環境推定の精度を高め、古地形から見た交通網の研究を実施した。

前回の作品：関ヶ原合戦の可視化

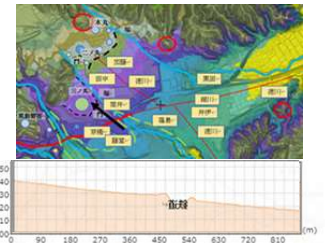


関ヶ原合戦時の濃尾平野は濃尾湿原だった



両軍 関ヶ原合戦の地へ移動

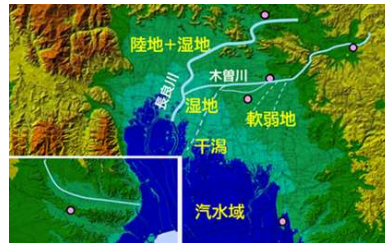
距離・時間で移動を解析すると、通説と違い、西軍の方が関ヶ原合戦の地で長く休憩をしていた。



今回の作品：各時代の海岸線推定精度を高める、古地形から見た交通網の研究成果

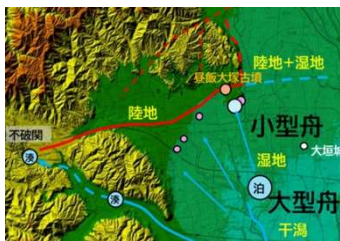


弥生時代の海岸線は朝日遺跡の貝塚で微調整  
ベンガラ・青石で航路を検討



古墳時代の海岸線推定は、同じ石室構造（石材）の古墳に着目

弥生期・古墳期の海の道（航路）は重要であった



古墳期は陸地が少なく航路が重要交通



古代期の陸地化が進み陸路の不破関が重要となる



「If 武将たちの関ヶ原」のイベント資料とイベント実施風景



河川からの堆積などで海岸線が南下

陸路が開発され不破関を含む「要の地・不破」ができる

武家の時代になり「要の地・不破」の重要性が増す

関ヶ原合戦以降も河川・沼田と共に生きた地である

研究評価：「要の地・不破」の独自性が浮き彫りになり、新しい歴史像が示めされた。  
関ヶ原町歴史民俗学習館館長 飯沼 暢康